

# 自転車 J I S が改正されました

(財) 自転車産業振興協会 技術研究所

## 1. 改正された J I S

今般、下記 5 規格が改正公示されました。

[平成 20 年 9 月 20 日付]

- ① J I S D 9 4 2 2 (自転車用タイヤバルブ)
- ② J I S D 9 4 2 8 (自転車用ディレーラ)
- ③ J I S K 6 3 0 4 (自転車タイヤ用チューブ)

[平成 20 年 11 月 20 日付]

- ④ J I S D 9 4 3 1 (自転車用サドル)
- ⑤ J I S C 9 5 0 2 (自転車用灯火装置)

## 2. 改正の概要

改正公示された J I S の主な概要は以下のとおりです。

### ① J I S D 9 4 2 2 (自転車用タイヤバルブ)

- ・引用規格および対応国際規格の改正に伴い、引用規格を整合化した。  
JIS H3250 (銅及び銅合金の棒) JIS K6304 (自転車タイヤ用チューブ)  
ISO 4570 (Tyre valve threads) に置き換える。
- ・引用規格の廃止に伴い、JIS K6307 (虫ゴム) を削除する。
- ・従来の単位と国際単位を併記していたが、従来の単位を削除することにより、国際単位に統一する。

### ② J I S D 9 4 2 8 (自転車用ディレーラ)

- ・引用規格の改正に伴い、引用規格を整合化する。  
JIS B0205 (メートル並目ねじ) を JIS B0205-1~B0205-3、JIS B0209 (メートル並目ねじの許容限界寸法及び公差) を JIS B0209-1~B0209-3 に置き換える。  
JIS B0207 (メートル細目ねじ) 及び JIS B0211 (メートル細目ねじの許容限界寸法及び公差) を削除。  
JIS D9111 (自転車分類及び諸元) 及び JIS H8617 (ニッケルめっき及びニッケルクロムめっき) に置き換える。
- ・従来の単位と国際単位を併記していたが、従来の単位を削除することにより、国際単位に統一する。

### ③ J I S K 6 3 0 4 (自転車タイヤ用チューブ)

- ・引用規格の改正に伴い、引用規格を整合化する。  
JIS K6251 (加硫ゴム及び熱可塑性ゴム引張特性の求め方) に置き換える。
- ・従来の単位と国際単位を併記していたが、従来の単位を削除することにより、国際単位に統一する。

### ④ J I S D 9 4 3 1 (自転車用サドル)

- ・サドルの耐久性の確認は、旧規格で規定されていた日本独自の振動試験を廃し、ISO や EN 規格に倣い、サドルに繰返し力を加える試験方法とした。
- ・試験方法を示す図を D 9 3 0 1 (一般用自転車) に整合化させた。
- ・トレーサビリティの観点から、製造業者社名に加え、製造年月、又はその略号も表示するよう規定した。
- ・引用規格の改正に整合化させた。

#### ⑤ J I S C 9 5 0 2 (自転車用灯火装置)

- ・規格の名称を“自転車用発電ランプ”から“自転車用灯火装置”に改正した。
- ・電球式だけではなくLEDを使用したものであっても、光源に関わらず自転車用ランプに必要な性能が評価できるよう規定項目を見直した。
- ・前照灯の光度は、旧規格の規定を最低光度（グレード1）に改め、それより明るいライトに対し、グレード5までの光度区分を設定した。
- ・バッテリーを使用した前照灯に関する規定を附属書から本文中に移すとともに、ハブダイナモに関する規定文を追加した。
- ・取扱説明書に二次電池を用いるものの推奨される充電方法、最大使用時間、長期間使用しない場合の注意事項を記載するよう追加した。

なお、今回改正された J I S の内容については、日本工業標準調査会のホームページ (<http://www.jisc.go.jp/>) から閲覧が可能です。